

# 自主防災への取り組み

## - 地震 -

基本方針・目標

地震の発生確率/震度/被害予測

人的被害リスク

減災対策

災害時避難要支援者支援

継続的改善と課題

地震発生時の行動指針

お隣近所グループカード

寝室の安全点検シート

# 基本方針・目標

- リスク評価に基づき人的被害を最小限にするために効果的・即効性のある減災対策に絞る
  - 住民の防災意識付けに焦点
- 住民の啓発は、現在ある資料を最大限活用
  - 栗東市の総合防災マップ、防災カード
  - 自治会防災マップ（大雨用）
- 具体的な目標を設定し、平成28年より対策を開始

# 地震の発生確率/震度・被害予測

- 南海トラフ巨大地震（発生確率：約70～80%、震度6弱）
  - 全壊家屋数/半壊家屋数：223/2, 126
  - 死者数/負傷者数：0～9/107～285
  - 震度6弱は、平成30年6月の大阪北部地震の最大深度と同じ
- 琵琶湖西岸断層帯地震（発生確率：最大3%、震度6強）
  - 全壊家屋数/半壊家屋数：1, 939/5, 127
  - 死者数/負傷者数：70～110/783～1, 207

# 人的被害のリスク

- 神戸淡路大震災では
  - 死亡者の約80%は家屋の倒壊・家具転倒による圧死、1985年以降の家屋での死亡はゼロ
  - 負傷者約70%は家具転倒やガラスの飛散による
  - 救助された人の内95.5%の人は共助（近所同士の助け合い）による
- 東日本大震災では
  - 死亡者の内、高齢者の死亡者数は約60%、障害者の死亡率は、被災住民全体の死亡率の約2倍
- 県の評価では、上鈎池は破堤の恐れ

# 減災対策

- 町内報を活用しての啓発（呼びかけ）
  - 防災カードの作成
  - 昭和56年以前の家屋の耐震診断及び耐震補強（公民館と1～2民家の耐震診断を手本として実施）
- 家具の転倒防止を中心とした安全点検リストの作成と住民への点検要請（即効性）
  - 寝室の安全点検の実施
- 安否確認を主目的とした一時集合所の指定と訓練
  - 班単位で指定,共助活動の拠点
- 災害時避難要支援者支援
- 上鈎池の耐震評価・対策（県の支援要）
  - 低水位で管理

# 要支援者支援

- 要支援者とは、災害時自身で避難することが困難な人で、当自治会では42名の人が対象
  - 36名が登録、4名は不同意
- 支援は、「共助」を基本に、自衛消防隊員及び地域支援者（近所の人）が**出来る範囲**で行う
  - **近所付き合いが無く、支援が必要な人を最優先**
  - **班単位で、自衛消防隊員や地域支援者が連携・協力する**
- 個人情報  
の守秘義務の厳守

# 継続的改善と課題

## ■ 改善中

- より実践的な避難訓練
  - ✓ 一時集合所で「お隣近所グループカード」を使った安否確認
  - ✓ 地震発生時の初期行動
- 一時集合所の表示
- 地域全体で要支援者の見守り啓発
  - ✓ 長寿会員相互の見守り、お隣近所グループ内の互いの見守り
- 要支援者対象者の市の制度への登録率アップ（現在85%）
- 共助環境づくり（隣近所・班単位の付き合い
  - ✓ 日常的自治会活動、防犯パトロール、町内清掃、ゴミ当番などの実態調査と改善、「お隣近所グループ」の編成

## ■ 課題

- 民家の耐震診断・補強
- 集合住宅住民の安否確認
- 要支援者の避難支援・救助
  - ✓ 緊急・福祉避難所
  - ✓ 出来る範囲の支援・救助の訓練